

農産FAX情報 第10号

令和4年10月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) 雑草対策

○イネ科雑草は越冬後に防除することが難しく、連作ほ場に発生しやすいです。秋のうちに除草剤散布を行いましょう。

○除草剤は、小麦の生育状況によって使用量が異なるため、注意しまししょう（表1）。

表1 除草剤使用例

薬剤名	適用雑草	10a 当たり使用量(mL)	使用時期	使用回数
ガルシアフロアブル	1年生雑草	200～150mL	は種後出芽前	1回
		100～200mL	出芽直前～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	
		200～250mL	小麦4～6葉期	
ガレース乳剤		200～250mL	は種後出芽前	
		150～250mL	出芽後～出芽揃まで	
		100～150mL	小麦1～3葉期 (雑草発生前～発生始期)	

2 てんさい

(1) 貯蔵時の注意点

○収穫したてんさいを、ほ場に一時堆積・貯蔵する場合は、被覆シートなどで被覆し、腐敗・乾燥を防止しまししょう。また、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も実施しまししょう。

3 農作業事故防止

○秋は、農作業事故の発生が最も多い時期です。降雨や強風などの影響も受けやすいため、機械点検や準備を行い、遅れてもあせらず作業しまししょう。

○ばれいしょや豆類の収穫作業では「巻き込まれ・挟まれ事故」「転落事故」に注意しまししょう。作業中に茎葉や石などの「つまり」が発生した場合には、必ずエンジンを停止し、回転の停止を確認してから作業を行いまししょう。作業機の乗り降りには運転者に合図をし、停止してから行いまししょう。

○日没が早くなっています。道路走行時、後方から来る車両に気づかれやすいよう、前照灯や車幅灯を早めに点灯し、低速車マークや反射板・反射シールなどを取り付け追突防止に努めまししょう。

4 トラクター等の大型作業機の移動における注意点

○今年は、雨が多く土壌中の水分が高いため、土塊や泥がタイヤ等に付着しやすく、車道に出た際に散乱しがちです。道路に落ちた土塊や泥は、歩行者の通行の妨げになり、車両の走行時においても大変危険です。やむを得ず落としてしまった場合は速やかに取り除きまししょう。